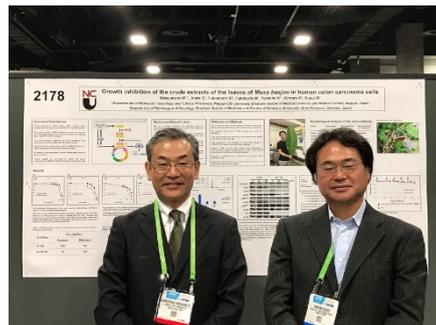


平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第 1 次 No.1

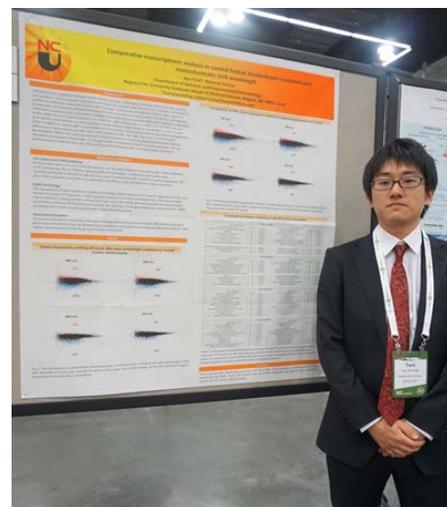
【所 属】	医学研究科 博士課程 4 年
【氏 名】	松本 晴年
【学会の名称】	American Association for Cancer Research (AACR) Annual Meeting 2017 (米国がん学会年次総会 2017)
【研究発表報告】	<p>2017年4月1日から5日に米国ワシントンDCで開催された米国がん学会 (American Association for Cancer Research) 年會に演題「植物芭蕉抽出物のヒト大腸がん細胞に対する増殖抑制効果」が採択されポスターセッションで発表する機会を与えて頂きました。本学会には約2万人が参加し、計約8千の成果発表が行われました。今回、国際学会で3年間の研究成果を発信し議論できたことはとても意義があります。</p> <p>本学会で得た知見や助言を今後の研究活動に生かして人類の健康に役立つ研究成果につなげます。このような機会を与えて頂いた分子毒性学分野の酒々井眞澄教授、臨床薬剤学分野の木村和哲教授および名古屋市立大学に深く感謝致します。</p>



報告者 (松本) 酒々井眞澄教

◆第 1 次 No.2

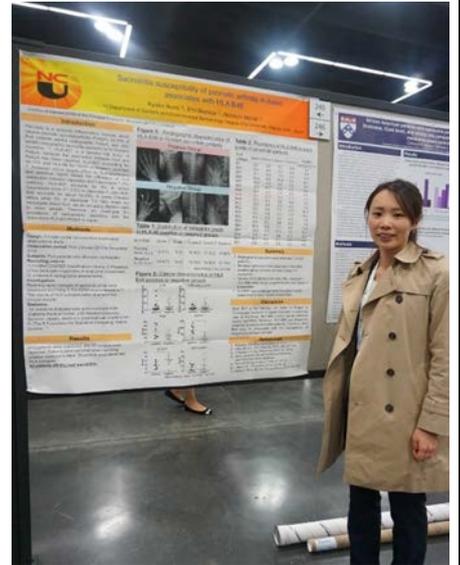
【所 属】	医学研究科 博士課程 1 年
【氏 名】	鳥居 寛
【学会の名称】	Society for Investigative Dermatology 76 th Annual Meeting (第76回米国研究皮膚科学会学術大会)
【研究発表報告】	<p>研究技術が非常に進んできており、細胞1つ1つの遺伝子発現まで確認できるようになってきています。そのため、炎症部位に集積している細胞はどのようなpopulationが多いか、今まで何をしていたかわからなかった細胞の機能などが今回の学会では報告されていました。RNA-seq、エピジェネティクス解析の全盛期であり、ビッグデータ解析が必須の技術となってきていますが、遺伝子がどのような機能を持っているかというのはwetで実験する必要があると感じました。</p>



平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

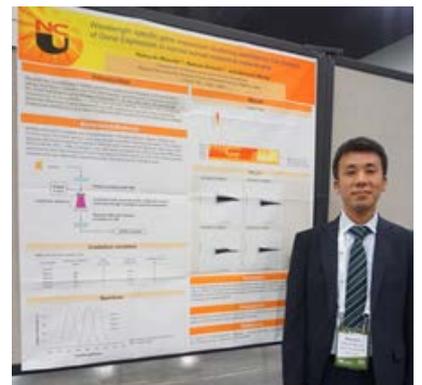
◆第 1 次 No.3

【所 属】	医学研究科 博士課程 2 年
【氏 名】	井汲 今日子
【学会の名称】	Society for Investigative Dermatology 76 th Annual Meeting (第76回米国研究皮膚科学会学術大会)
【研究発表報告】	<p>最先端をいく研究も多く集まる学会に参加することができ、とても良い経験になった。世界ではシングルセルの解析が進んでいること、マイクロバイオームの解析がとてもすすんでいることが印象に残った学会であった。ポスター発表では乾癬性の脊椎関節炎と HLAB46 の関連性を報告し、アジアと欧米での乾癬の違いについて再認識する機会となった。本研究は大規模試験ではないが、乾癬性仙腸関節炎の患者において HLAB46 が圧倒的に多く確認される。欧米ではこれが HLAB27 と考えられていて、欧米とは HLA サブタイプが異なると考えられ、アジアと欧米の乾癬には違いがあると思われる。また、海外の先生方と英語ディスカッションし、見識を深めた。</p> <p>さらに、数々のポスターや口演をみることで、どのように組み立てるべきかじっくり考えることができた。実験の組み立て方は非常に重要であり、今後の実験に役立てたいと思う。また、研究をしていく上で英会話は最低限であり、年に一度のこの学会において英語にふれディスカッションすることは、国際的視野に立つ上でも重要と考えられた。今後は自分の研究を、論文として形にして報告する必要があると思う。</p>



◆第 1 次 No.4

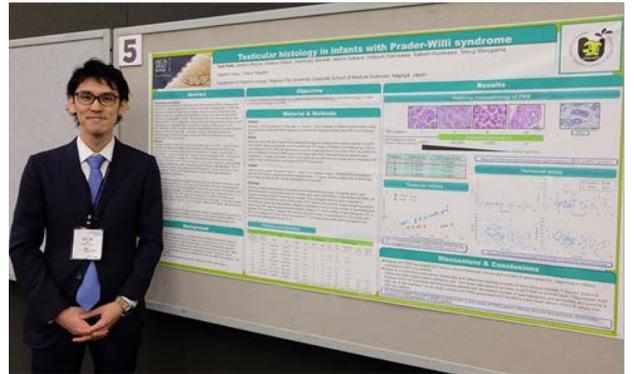
【所 属】	医学研究科 博士課程 3 年
【氏 名】	益田 秀之
【学会の名称】	Society for Investigative Dermatology 76 th Annual Meeting (第76回米国研究皮膚科学会学術大会)
【研究発表報告】	<p>Oregon Convention Center/ポートランドにて開催されましたSID (米国研究皮膚科学会) に参加して参りました。本学会は、文字通り皮膚科分野の研究に関する学会で、私の発表内容は光を用いた皮膚治療に関するものでした。質疑応答や関連する研究発表等に関するディスカッション等を通し、非常に有益な経験をすることができました。</p>



平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

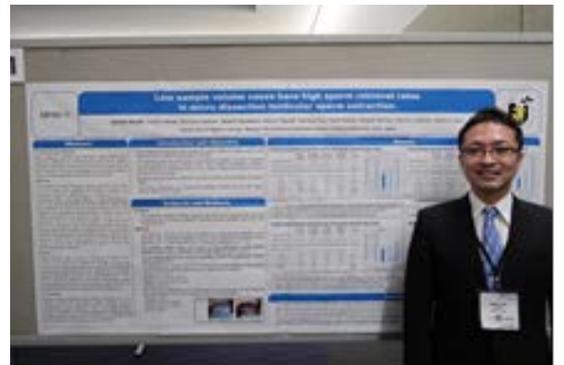
◆第 1 次 No.5

【所 属】	医学研究科 博士課程 2 年
【氏 名】	加藤 大貴
【学会の名称】	112 th American Urological Association Annual Meeting(アメリカ泌尿器科学会)
【研究発表報告】	<p>American Urological Association(AUA:アメリカ泌尿器科学会)は泌尿器科学の領域においてもっとも権威のある学会で、本年は東海岸のマサチューセッツ州ボストンで開催されました。ポスターの前でプレゼンテーションを行い、その後、壇上で演題の要約と質疑応答を行いました。今回が私にとって初めての海外での発表であり、またレセプションでは海外の著名な先生方とお話させていただくことができ、貴重な経験となりました。このような機会に支援をいただきました名古屋市立大学国際学会発表支援事業に深く感謝をいたします。</p>



◆第 1 次 No.6

【所 属】	医学研究科 博士課程 2 年
【氏 名】	野崎 哲史
【学会の名称】	American Urological Association Annual Meeting 2017 (アメリカ泌尿器科学会年次総会)
【研究発表報告】	<p>2017年5月13-16日までボストンで開催されたAUA 2017(アメリカ泌尿器科学会総会)で発表して参りました。内容は、男性不妊症の手術であるMicro-TESE(顕微鏡下精巣内精子採取術)における、組織採取量と採精率の関係についてです。初めての国際学会で、規模の大きさと自分の英語力のなさに圧倒されましたが、世界レベルの知見を得ることができました。このような貴重な機会を与えていただいたすべての皆様に心より御礼申し上げます。</p>

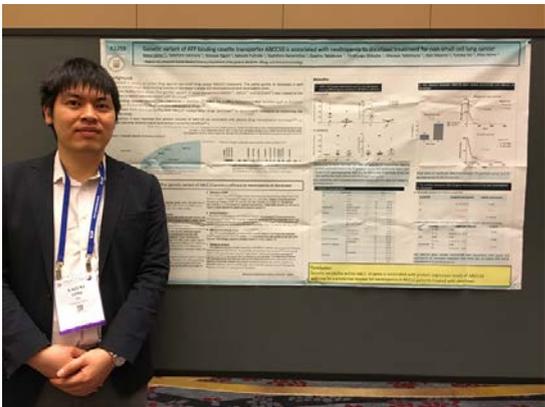


平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第 1 次 No.7

【所 属】	医学研究科 博士課程 3 年
【氏 名】	海野 怜
【学会の名】	American Urological Association Annual Meeting 2017 (アメリカ泌尿器科学会年次総会)
【研究発表報告】	<p>今回は発表も含め経験は、今後の基礎研究をする上で様々な知識を得ることができ非常に充実したものとなりました。研究をご指導いただいた様々な先生方に感謝するとともに、今後研究を含めより一層精進していきたいと思えます。</p> 

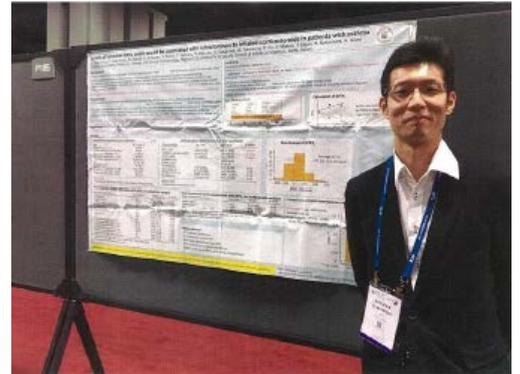
◆第 1 次 No.8

【所 属】	医学研究科 博士課程 3 年
【氏 名】	曾根 一輝
【学会の名称】	American Thoracic Society (米国胸部学会)
【研究発表報告】	<p>今回の発表に際し、ファシリテーターをはじめとして各国の専門家から多数の意見や提案を頂きました。その中でも特に、ポスターディスカッションセッションであったため、肺癌のバイオマーカーとしての本研究や他の研究の位置付をインタラクティブに議論できました。この様に本研究の今後の課題や方向性を確認する上で非常に有意義な機会でした。</p> <p>今回このような国際学会に参加および発表させて頂き、世界各国からの専門家による意見や議論は、国内学会では獲得しづらい有意義で貴重な経験であり、また今後日々自己研鑽のモチベーションを高める良い機会となりました。</p> 

平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

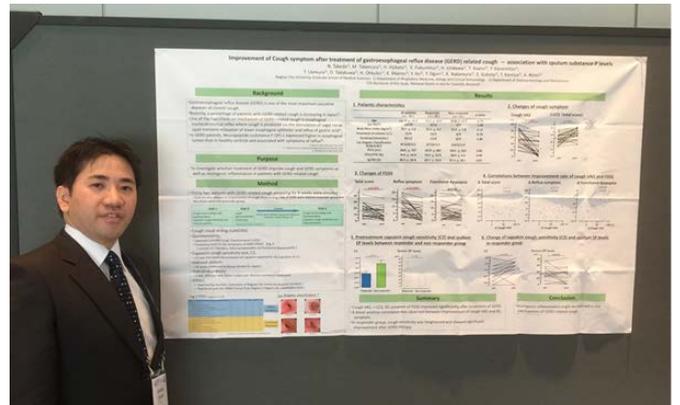
◆第 1 次 No.9

【所 属】	医学研究科 博士課程 4 年
【氏 名】	福光 研介
【学会の名称】	ATS International Conference 2017(アメリカ胸部疾患学会2017)
【研究発表報告】	<p>この度、2017年5月19日～5月24日にアメリカ合衆国のワシントンD.C.で開催されたATS International Conference 2017に参加させていただきました。本学会は呼吸器学のすべての分野がテーマであり、当研究室のテーマである喘息・慢性咳嗽分野においても、最先端の内容が発表されていきました。今回、私は「Levels of alveolar nitric oxide would be associated with refractoriness to inhaled corticosteroids in patients with asthma(末梢気道炎症の残存は吸入ステロイド治療反応性不良に関わる)」という演題で発表する機会を得ました。英語力不足を痛感したものの、このような専門性の高い国際学会で当研究室の成果を発表することができ、自らの知識習得に大きな影響を与えただけではなく、名古屋市立大学の国際認知度の向上に貢献できたものと考えております。</p>



◆第 1 次 No.10

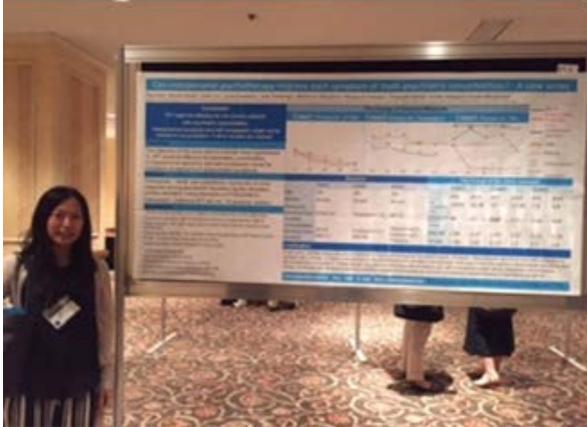
【所 属】	医学研究科 博士課程 4 年
【氏 名】	武田 典久
【学会の名称】	American Thoracic Society international conference 2017 (米国胸部学会)
【研究発表報告】	<p>2017年5月19日から24日までアメリカ ワシントンDCで開かれていたAmerican Thoracic Society international conferenceに参加し、「Improvement of Cough symptom after treatment of gastroesophageal reflux disease (GERD) related cough – association with sputum substance Plevels」という題目で発表させていただきました。世界各国から高名な研究者や臨床医が集まり、様々な討論を行いました。今学会で得られた知見を今後の研究に生かしていきたいと考えております。</p>



平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

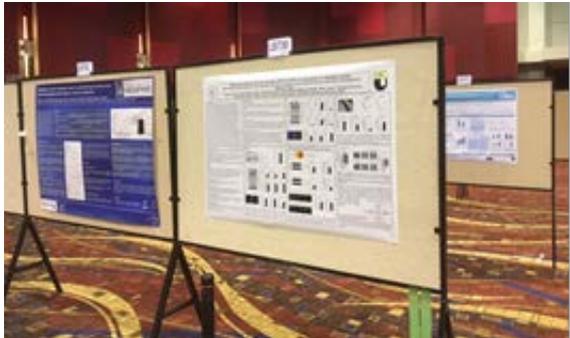
◆第 1 次 No.11

【所 属】	医学研究科 博士課程 3 年
【氏 名】	今井 理紗
【学会の名称】	International Society of Interpersonal Psychotherapy(国際対人関係療法学会)
【研究発表報告】	<p>平成29年6月14日から17日にカナダのトロントで開催された第7回国際対人関係療法学会 (International Society of Interpersonal Psychotherapy) にて、「Can interpersonal psychotherapy improve each symptom of multi-psychiatric comorbidities? : A case series」という題目でポスター発表をさせていただきました。この発表を通して情報交換を行ったことで、今後の課題や目標がより明らかとなりました。このような貴重な経験をする機会ができたことに感謝致します。</p>



◆第 1 次 No.12

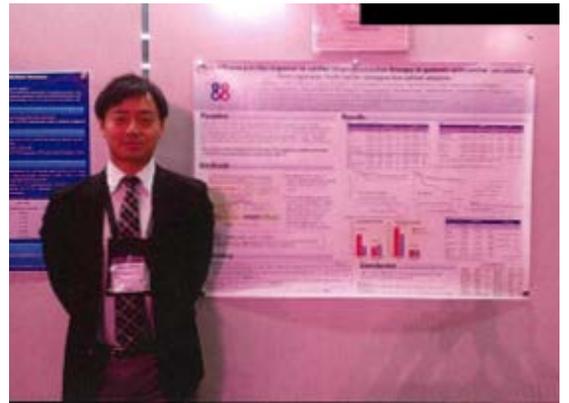
【所 属】	システム自然科学研究科 博士前期課程 2 年
【氏 名】	山田 麻未
【学会の名称】	Experimental Biology 2017
【研究発表報告】	<p>2017年4月22日～26日にシカゴで開催されたExperimental Biology 2017という学会に参加し、「骨格筋の筋収縮活動はSDF-1α/CXCL12の発現を制御する」というテーマで発表致しました。世界各国の研究者と議論することができ、今後の研究の発展に繋がる大変貴重な経験を積むことが出来ました。このような機会を与えて下さいました名古屋市立大学国際学会支援事業に深く感謝致します。</p>



平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第2次 No.1

【所属】	医学研究科 博士課程 2 年
【氏名】	中須賀 公亮
【学会の名称】	ESC (European Society of Cardiology) Congress2017 (ヨーロッパ心臓病学会2017)
【研究発表報告】	<p>最も感じたことは国内学会に比べて積極的に討論をする雰囲気があった点である。国民性もあるかもしれないが、学会会場の工夫などによってスピーカーと聴衆の距離を縮めさせることはできるかもしれない。私自身においても国内学会においても討論に参加できるよう自分を高める必要があると感じた。</p> <p>悲惨なテロの直後にも拘わらず、多くの参加者がつめかけていた。テロの中心地となった大通りにも多くの観光客が押し寄せ犠牲者の冥福を祈っていた。国際学会で論じられる医療は平和が基礎となって成り立つものである。テロとヨーロッパ心臓病学会、複雑な気持ちで挑んだ今回の学会は特に忘れられないものになるだろう。</p>



◆第2次 No.2

【所属】	医学研究科 博士課程 1 年
【氏名】	古田 好輝
【学会の名称】	Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe (欧州心臓血管・血管内治療学会 2017)
【研究発表報告】	<p>塞栓術後のコイルの消化管への逸脱は報告として非常に少なく、その対処法に関しても決まった基準はありません。今回我々は、塞栓術後の消化管へのコイル逸脱に対してPPI内服による保存的治療を行いました。保存的治療を選択した理由・考え方とともに、過去の症例報告をまとめ、発表しました。この一例を発表することによって、他の先生方にも考え方を広めることができたと考えます。</p> <p>今回、CIRSE2017に参加し、海外Drの考え方・最新の知見に触れることができました。ご指導くださりました先生方に感謝申し上げますとともに、今回得た経験を日常診療・研究に活かしてまいります。</p>



平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第2次 No.3

【所属】	医学研究科 博士課程 2 年
【氏名】	中山 敬太
【学会の名称】	Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe (欧州心臓血管・血管内治療学会 2017)
【研究発表報告】	<p>平成29年9月16日から20日にデンマーク、コペンハーゲンにて開催された CIRSE(Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe) に参加させていただき、「Advanced monoenergetic reconstruction technique in dual-energy computed tomography in evaluation of vascular anatomy before adrenal vein sampling (副腎静脈サンプリング前のmonoenergetic plus の有用性)」について発表をさせていただきました。大学院での研究内容のテーマについて発表することができ、とてもいい経験となりました。</p> <p>また、学会全体を通してIVR領域における最先端の知見を得ることができました。</p>



◆第2次 No.4

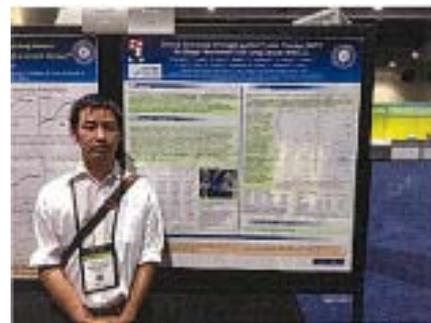
【所属】	医学研究科 博士課程 2 年
【氏名】	澤田 裕介
【学会の名称】	Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe (欧州心臓血管・血管内治療学会 2017)
【研究発表報告】	<p>私は2017年9月16日～21日にかけてデンマークのコペンハーゲンにて開催されたCardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe (CIRS)2017に参加してきました。この学会は Interventional Radiologyの領域では世界最大級の学会であり、私は、Advanced monoenergetic reconstruction technique in dual-energy computed tomography in evaluation of endoleak after endovascular aneurysm repairというタイトルについて発表を行いました。このような学会で、自分自身の研究内容を発表することができたことは、大変意義のある経験となりました。また、様々な地域出身の研究者の方々との議論を通じ、今後の研究に有用な助言や、自分とは異なった視点からの意見を多数頂くことができ、ここで得られた経験を自身の研究に活かしていきたいと思えます。</p>



平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

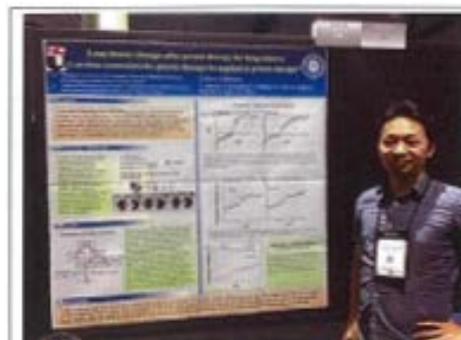
◆第2次 No.5

【所 属】	医学研究科 博士課程 2 年
【氏 名】	中 崙 晃 一 朗
【学会の名称】	ASTRO's (American Society for Radiation Oncology) 59 th Annual Meeting (米国放射線治療学会年次総会)
【研究発表報告】	<p>この度、サンディエゴにて行われた米国放射線治療学会にポスター発表というかたちで参加させていただきました。本学会は、放射線治療分野における世界最大規模の学会ということで多くのことを勉強させていただくことが出来ました。今回の私の発表はI期肺癌に対する陽子線治療の成績についてであり、陽子線治療の有用性を知ってもらう良い機会となったのではないかと考えています。大学院生として行っている基礎生物学研究についても学ぶことが多く、今回の学会で得ることのできた知識・経験を臨床や研究につなげ、今後も継続して、世界に通用するような研究報告を行えるように努力していきたいと思えます。</p>



◆第2次 No.6

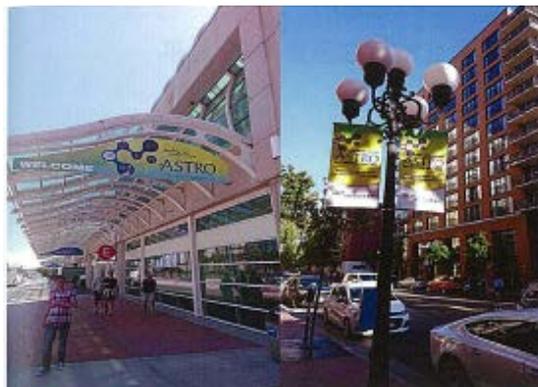
【所 属】	医学研究科 博士課程 3 年
【氏 名】	近 藤 拓 人
【学会の名称】	ASTRO's (American Society for Radiation Oncology) 59 th Annual Meeting (米国放射線治療学会年次総会)
【研究発表報告】	<p>この度は、2017年9月24日～9月27日に開催されたASTRO's(American Society for Radiation Oncology) 59th Annual Meeting (米国放射線治療学会年次総会)に参加させていただきました。本学会のテーマthehealing art and science of radiation oncology”で、あり、全世界中より放射線治療に関わる医師、看護師、技術者等が集まり、活発な議論が行われました。今回、私は幸いにも名古屋市立大学国際学会発表支援事業の援助を頂き、“Definitiveintensity-modulated radiation therapy for super-elderly patients with prostate cancer” (高齢前立腺癌患者に対する強度変調放射線治療の成績) という内容で放射線治療分野の最大の国際学会で発表するという貴重な経験をさせていただきました。今後も研究・臨床・学会発表等を行い、名古屋市立大学に貢献できればと思います。</p>



平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第2次 No.7

【所 属】	医学研究科 博士課程 2 年
【氏 名】	岡崎 大
【学会の名称】	ASTRO's (American Society for Radiation Oncology) 59 th Annual Meeting (米国放射線治療学会年次総会)
【研究発表報告】	<p>今回、私は米国で毎年開催されるASTRO'S 59th Annual Meetingという学会に参加した。今年アメリカ西海岸のSan Diegoで開催された。世界各国の放射線治療に関わる医者、放射線技師など1万人以上が参加する学会である。写真のように学会会場はもちろん、街中でもいたるところで学会のポスターや案内冊子などを見かけ、大きなイベントであることが伺える。学会は大きく口頭発表、ポスターセッション、機器展示に分けられる。私はポスターセッションでの参加となったが、ポスターだけでも数百にもものぼり、各臓器・部位別に各国からの様々な研究内容が発表された。当然使用言語は英語なので不得手な私にとっては追いつくのに精一杯という状況ではあるが、著名な先生方による教育講演や最新の治験に関する講演を拝聴し、機器展示では最新の機器に触れることも可能であり、非常に有意義な学会参加となった。</p>



◆第2次 No.8

【所 属】	薬学研究科 博士前期課程 1 年
【氏 名】	青山 柚里奈
【学会の名称】	the 10th Liquid Matter Conference Liquids 2017 (第10回リキッドマター会議)
【研究発表報告】	<p>今回、スロベニアで行われたthe 10th Liquid Matter Conference Liquids 2017に参加し、ポスター発表を行いました。慣れない英語でのコミュニケーション、リスニングは大変でしたが、多くの発表を聴講したり、ディスカッションしたりすることで、海外での様々な分野の研究内容を知ることができ、自分の研究の課題を発見することができました。学会は五日間でしたが、非常に有意義な時間を過ごせ、貴重な経験をすることができました。</p>



平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第2次 No.9

【所 属】	薬学研究科 博士課程3年
【氏 名】	関 友崇
【学会の名称】	the 10th Liquid Matter Conference - Liquids 2017 (第10回リキッドマター会議)
【研究発表報告】	<p>2017年7月17日から21日にかけてスロベニア・リュブリャナで行われた”The 10th Liquid Matter Conference”に参加した。私は”Dynamics of Charged Colloids in Inhomogeneous Concentration Fields”について発表を行った。私と近い内容を研究している研究者に多く出会い、議論や意見交換を行えたことが非常に有意義であったと感じている。現在の研究内容に関することに加え、研究者としての視野を広げる上でも非常に意義のある学会参加であった。学会参加に際して協力してくださった方々に感謝しています。</p>



◆第2次 No.10

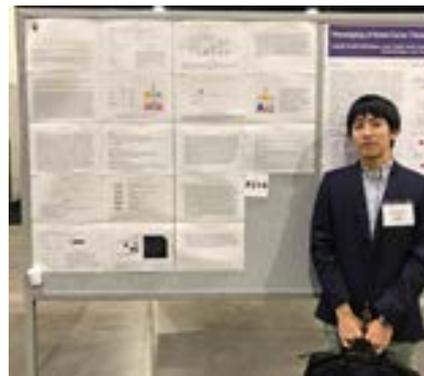
【所 属】	薬学研究科 博士課程1年
【氏 名】	前田 琴美
【学会の名称】	International Continence Society 2017(国際禁制学会2017)
【研究発表報告】	<p>9月12日～15日にイタリア・フローレンスで開催された International Continence Society 2017(国際禁制学会2017)で口頭発表を行って参りました。世界中から集まった研究者たちが活発に議論を交わしている様子に強く刺激を受けました。国際学会での発表は初めての経験であり、英語での議論が思うようにできず悔しい思いもしましたが、非常に貴重な経験となりました。今回の経験を今後の成長の糧にし、研究や英語の勉強等により励んでいきたいと思っております。</p>



平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

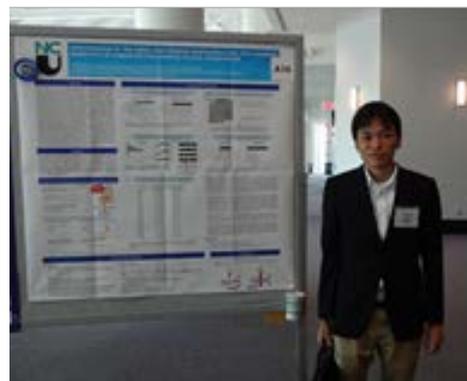
◆第2次 No.11

【所属】	薬学研究科 博士課程 4 年
【氏名】	三村 佳久
【学会の名称】	21st North American ISSX Meeting (第21回北アメリカ国際薬物動態学会)
【研究発表報告】	<p>私は、9/24-9/28にアメリカ合衆国のプロビデンスで行われた第21回北アメリカ国際薬物動態学会に参加し、ポスター発表を行いました。最先端の研究が発表される学会の中で、多くのことを学ぶことができました。また、そのような中で、自身の研究内容を発表し、海外の研究者と意見を交わせたことは非常に有意義であったと感じています。今回得られた貴重な経験を、今後の研究生活に生かしていきたいと思えます。</p>



◆第2次 No.12

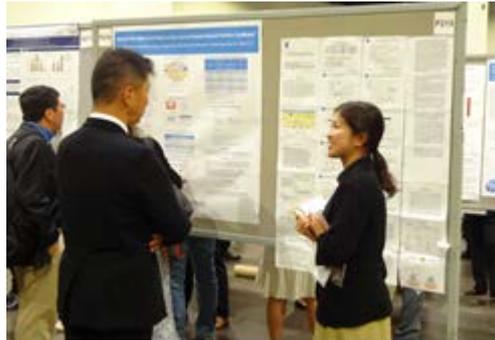
【所属】	薬学研究科 博士後期課程 3 年
【氏名】	山城 貴弘
【学会の名称】	21st North American ISSX Meeting (第21回国際薬物動態学会北米年会)
【研究発表報告】	<p>今回、私は2017年9月24-28日にかけて米国プロビデンスで開催された21st North American ISSX Meetingに参加しました。口頭発表、ポスター発表とも活発な議論が行われ、非常に活気に溢れており、様々な興味深い知見に触れることができました。英語での議論に苦労した点もありましたが、自身の研究に関して、様々な意見、助言をもらうことができました。研究成果を世界に発信すると共に、大きな刺激を受けることができ、貴重な経験をすることができました。</p>



平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

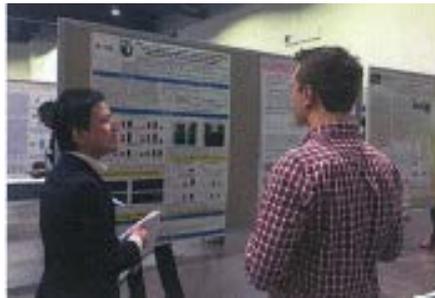
◆第2次 No.13

【所 属】	薬学研究科 博士前期課程 1 年
【氏 名】	竹中 理沙
【学会の名称】	21st North American ISSX Meeting (第21回北アメリカ国際薬物動態学会)
【研究発表報告】	<p>私はプロビデンスにおいて開催された国際学会に参加し、ポスター発表をしてきました。国内外問わず多くの研究者との議論を通して、自身の研究について新たな気づきを得ることができました。また、自身の英語力の低さを痛感したので、次回参加する際には、今より英語力に磨きをかけて、もっと様々なことに吸収したいと思います。</p>



◆第2次 No.14

【所 属】	薬学研究科 博士課程 3 年
【氏 名】	小野里 太智
【学会の名称】	21st North American ISSX Meeting (第21回北アメリカ国際薬物動態学会)
【研究発表報告】	<p>アメリカのプロビデンスで開催された第21回北米薬物動態学会に9月24日から28日まで参加し、ポスター発表を行いました。初めての国際学会参加ということで、緊張しましたが、多くの海外研究者の方から意見、質問等を頂き、自分の研究に興味関心がもたれているということが非常に大きな自信となりました。一方、自分自身の語学力のなさから伝えたいことが伝えきれずに終わってしまう悔しさも味わいました。今後、圏内外で活躍できる研究者になるためには語学力も欠かせないということに気づかされました。この経験を今後の研究にも生かしていこうと思います。</p>



平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

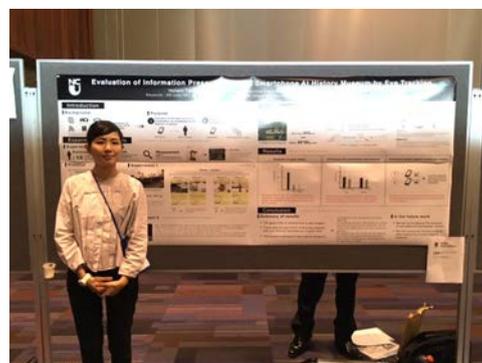
◆第2次 No.15

【所 属】	システム自然化学研究科 博士後期課程 2 年
【学会の名称】	XIX International Botanical Congress (第19回国際植物学会)
【氏 名】	李 爽
【学会の名称】	
	自分のポスター発表に数人が質問に来ました。シロイヌナズナの long非コードRNAであるAtR8RNAの機能に興味を示していました。私はポスター発表として、シロイヌナズナの非コードRNA in vitro 転写を示しており、多くの人はその手法に興味がありそうでした。皆さんからの意見をまとめると：1.AtR8RNAの機能を詳しくにする、2.in vitro転写系は一つの証明だけであり、in vivoの結果が重要、3.関連する遺伝子の詳細について知りたい、というものでした。
	それらの意見は今後の研究にとっても役立つと思います。
	世界の研究者の前端的な成果を知り、研究に役立てる。他の研究者と比べると、自分のレベルが低いので、さらに頑張らなければならないと思いました。



◆第2次 No.16

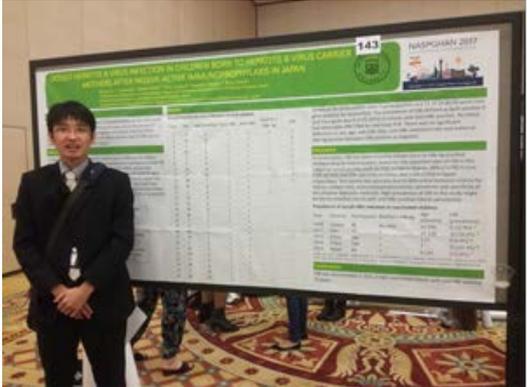
【所 属】	芸術工学研究科 博士前期課程 2 年
【氏 名】	武 穂波
【学会の名称】	HCI International2017 (ヒューマンコンピューターインタラクションインターナショナル2017)
【研究発表報告】	
	カナダのバンクーバーで2017年7月9日～14日に行われたHCII2017に参加させていただきました。HCIIに参加することで、様々な国の研究事例を知ることができ、またポスターに参加することで、自身の研究の国際的な価値や位置を知ることができたことがとても良かったと思います。自身の研究のどのような部分が評価されており、どのような観点や分析が不足しているのかを、質疑応答や他の研究を知ることによって気づくことができました。また、各国の研究を通して、研究の手法や技術的な知識だけではなく、国や地域における社会情勢や文化背景も同時に知ることができ、国際的な知見を広げることができたと思います。今後研究を進めていくにあたり、大変勉強になり、有意義でした。この度の国際会議への参加にあたり、ご支援をいただきましたこと、感謝しております。



平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

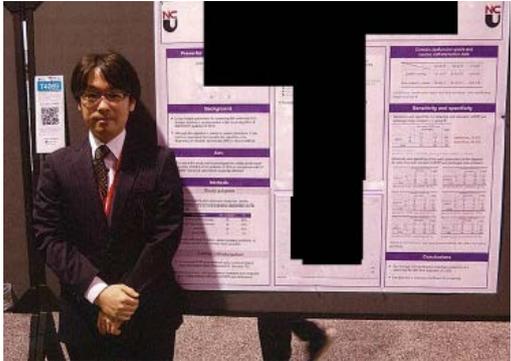
◆第3次 No.1

【所 属】	医学研究科 博士前期課程 1 年
【氏 名】	伊藤 彰悟
【学会の名称】	45 th NASPGHAN Annual Meeting (第45回北米小児栄養消化器肝臓学会)
【研究発表報告】	<p>2017年11月1日～4日にラスベガスで開催された45th NASPGHAN Annual Meetingへ参加させていただきました。本学会は北米で開催される小児の栄養・消化器・肝臓に関する学会で、私は「Occult hepatitis B virus infection in children born to hepatitis B virus carrier mothers after passive-active immunoprophylaxis in Japan.」のタイトルでポスター発表を行いました。今回の学会で得た知見をもとに、今後さらに研究に励んでいきたいと思っております。</p>



◆第3次 No.2

【所 属】	医学研究科 博士課程 3 年
【氏 名】	山本 惇貴
【学会の名称】	AHA-American Heart Association Scientific Sessions 2017 (米国心臓協会2017年学術集会)
【研究発表報告】	<p>この度AHA（米国心臓協会） scientific sessions 2017に参加させて頂きました。会場となったアナハイム市はカリフォルニア州にあり、学会期間中は天候にも恵まれ、素晴らしい環境で会を迎えることができました。全世界から多数の参加者があり、会場内至るところで活発な議論が交わされていたのが印象に残っています。今回私は心エコー図検査における左室拡張機能評価についての新しい米国／欧州合同ガイドラインについて、当院でのデータを基に妥当性について検証し結果を発表してきましたが、ガイドライン改定が昨年ということで他施設からも同様な報告があり、関心度の高さが伺えました。Poster professorや参加者とのdiscussionを通して、自己の解析の甘かった点や、結果の解釈について異なる視点からの示唆を貰うことができ、非常に有意義でした。また、今後の研究へのモチベーションも高まり、充実した5日間でした。</p>

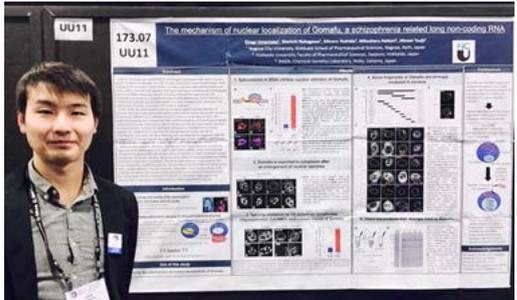


平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.3

【所 属】	医学研究科 博士課程 2 年
【氏 名】	Baudi Ian
【学会の名称】	2017 International HBV Meeting, Satellite Symposium
【研究発表報告】	<p>It was a truly inspirational experience participating at the 2017 HBV meeting. A lot of impressive research aimed at understanding the molecular biology of Hepatitis viruses and towards finding an HBV cure is being conducted all over the world.</p> 

◆第3次 No.4

【所 属】	薬学研究科 博士前期課程 1 年
【氏 名】	梅本 銀河
【学会の名称】	Neuroscience 2017 (北米神経科学会)
【研究発表報告】	<p>私は2017年11月11～15日にアメリカのワシントンで行われた、Neuroscience 2017において、ポスターでの研究発表を行いました。この学会は、世界中の神経科学者が集まる非常に規模の大きな学会です。シンポジウムやポスターなど様々な場面で、同世代の学生が活発に議論している姿に刺激を受けました。またかなり幅広く神経科学の研究分野に触れることができ、新たな知識を取り入れることができました。今後は自身の研究をさらに進めるとともに英語の能力も向上させたいと思います。</p> 

平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.5

【所 属】 薬学研究科 博士前期課程 2 年

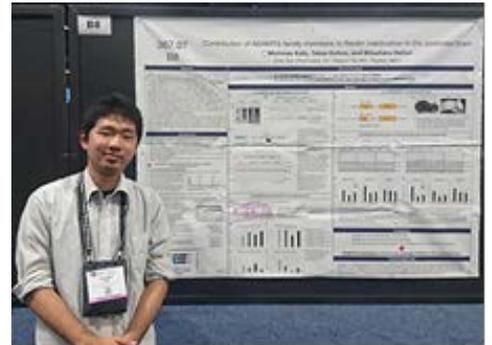
【氏 名】 加藤 路尚

【学会の名称】

Neuroscience 2017 (北米神経科学学会)

【研究発表報告】

私は2017年11月11～15日にアメリカのワシントンDCで行われた、Neuroscience 2017において、ポスター発表を行いました。この学会は、世界中の神経科学者が集まる非常に規模の大きな学会です。シンポジウムやポスターなど様々な場面で盛んに意見交換が行われている様子が印象的でした。発表では、様々な研究者の方と研究について英語でディスカッションを行いました。このことは大変貴重な体験であり、勉強になりました。この学会に参加したことで、今後の課題や目標が明らかとなりました。さらに研究や英語の勉強に力を入れていきたいと考えています。



◆第3次 No.6

【所 属】 薬学研究科 博士課程 1 年

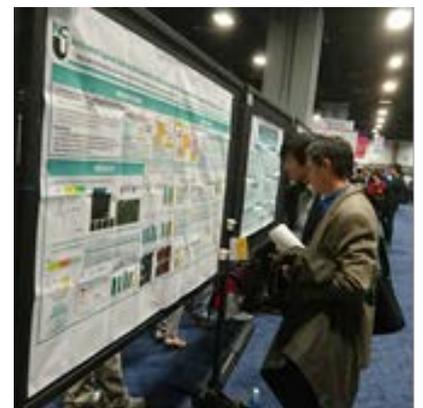
【氏 名】 宮本 啓輔

【学会の名称】

Neuroscience 2017(北米神経科学学会)

【研究発表報告】

今回参加させていただいた学会は、神経科学分野では最大規模の、参加者3万人を超える学会であり、多くの成果が得られました。特に、私が発表したポスターでは、世界的に著名な方を始め、多くの研究者の方たちに足を止めていただき、重要な質問や、研究の進展につながる貴重な意見をいただきました。今後も、国際学会の場で積極的に参加・発表し、研究者としてのスキルをさらに向上させていきたいと思えます。



平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

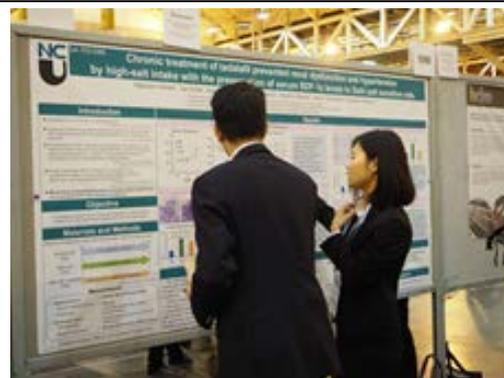
◆第3次 No.7

【所 属】	薬学研究科 博士前期課程 2 年
【氏 名】	後藤 瑛一
【学会の名称】	2017 AAPS ANNUAL MEETING AND EXPOSITION (AAPS年会)
【研究発表報告】	<p>私はアメリカのサンディエゴで開催された2017 AAPS Annual Meeting and Exposition に参加し、「経肺投与を目的とした多孔質PLGAマイクロ粒子の開発とマクロファージに対する粒子の取り込み挙動」についてポスター発表を行いました。海外の研究者が自分の研究に興味を持って下さり、たくさんの質問を受けました。英語でディスカッションすることは、私にとってとても良い刺激になりました。ここで得られた経験を活かして、今後の研究活動に役立てたいと思います。</p>



◆第3次 No.8

【所 属】	薬学研究科 博士前期課程 2 年
【氏 名】	富田 なつみ
【学会の名称】	American Society of Nephrology Kidney Week 2017 (米国腎臓学会2017)
【研究発表報告】	<p>私はアメリカ・ニューオリンズで開催されたAmerican Society of Nephrology Kidney Week 2017に参加し、ポスター発表を行いました。多くの研究者がいたところで議論を交わしていました。腎分野でも様々な視点から研究が行われ、視野が広がるとともに今後の研究への刺激をもらう貴重な経験となりました。得られた自信や経験を励みに、研究生活に取り組んでまいりたいと思います。</p>



平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.9

【所 属】 システム自然科学研究科 博士後期課程 3 年

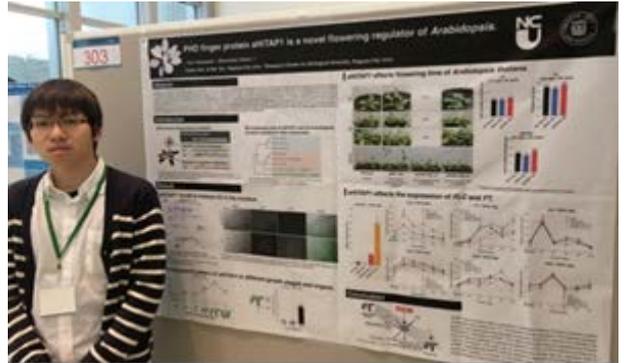
【氏 名】 横山 悠理

【学会の名称】

Taiwan Japan Plant Biology 2017 (2017年台湾日本植物生物学国際学会)

【研究発表報告】

Taiwan Japan Plant Biology 2017にて、「PHD finger タンパク質 aHiTAP1はシロイヌナズナにおける新規の 開花制御因子である」という演題でポスター発表を行いました。大会における講演では、非常に自身の研究テーマに関連した発表を聞くことができ、今後の研究展開に役立つ有意義な情報を得ることができました。また、自身の発表では、様々な国の研究者の方々に興味を持ってもらえ、議論や意見交換を行うことができました。そして、今後の研究課題を明確にすることができたため、本発表が非常に有意義なものであったと考えています。



◆第3次 No.10

【所 属】 システム自然科学研究科 博士後期課程 3 年

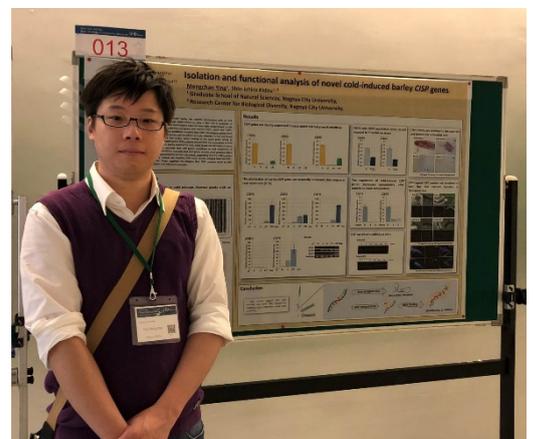
【氏 名】 應 夢超

【学会の名称】

Taiwan-Japan Plant Biology 2017 (台湾-日本植物学会2017)

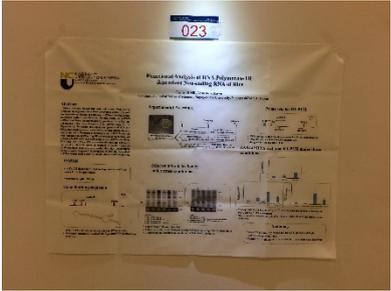
【研究発表報告】

台湾の中央研究院で開催された国際学会 (Taiwan-Japan Plant Biology 2017) に参加し、「Isolation and functional analysis of novel cold-induced barley *CISP* genes (新規オオムギ低温応答遺伝子 *CISP* の解析)」という演題でポスター発表をしてきました。発表内容はムギから単離した *CISP* 遺伝子の特徴や発現様式で、*CISP* 遺伝子が低温耐性を持つムギ類に特異的な遺伝子であることや、低温下で特異的に発現誘導されることなどを報告しました。学会には台湾と日本を中心に世界中から植物の研究者や学生が参加していたので、それら人々と英語で交流するという貴重な経験をさせて頂きました。また、発表では多くの方々から研究の役に立つアドバイスを頂くことができ、非常に有益な時間を過ごすことができました。



平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.11

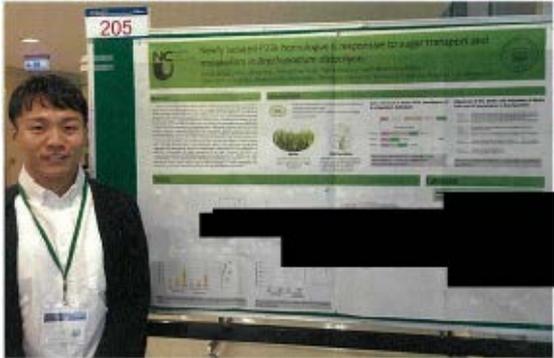
【所 属】	システム自然科学研究科 博士前期課程 2 年
【氏 名】	AILIZATI AILI
【学会の名称】	Taiwan-Japan Plant Biology 2017 (台湾-日本植物学会2017)
【研究発表報告】	<p>今回は私の初めて国際学会参加でしたが、世界的な発表を聞いて、私の将来研究に重要な意味があると感じました。次の学会まで、私はもっと頑張っていて、良い方法、アイデアを使って、理想的な良い結果を皆に見せたいと感じました。</p> 

◆第3次 No.12

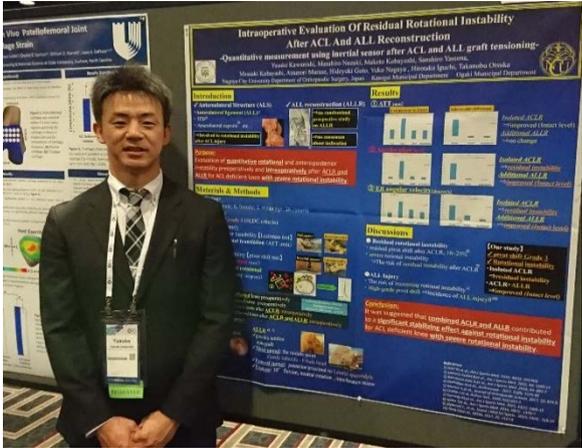
【所 属】	システム自然科学研究科 博士前期課程 2 年
【氏 名】	趙 雪洋
【学会の名称】	Taiwan-Japan Plant Biology 2017 (台湾-日本植物学会2017)
【研究発表報告】	<p>学会で世界中の研究者の前での発表は、その形式は2種類があります。口頭発表とポスター発表です。今回私はポスター発表に参加し、広い会場に設けられた仕切り板にポスターを貼って、興味をもっている聴衆に内容を説明しました。この学会では、本研究で用いたインビトロ法の植物のクロマチン形成に関わるNAP1タンパク質の機能解析について、研究成果を発表しました。真核生物において、クロマチン構造を形成するタンパク質、ヒストンとNAP1は、非常に重要な役割があるが、植物についての研究は少ないです。また、植物からそれらのタンパク質の抽出方法は、技術的にまだまだ一つの難点です。本研究室の研究を海外の研究者に紹介するため、国際学会に参加し、積極的に世界レベルの研究者と情報交換しました。将来には貴重な経験が積むことができました。</p> <p>自身が発表会場を回って感じたことですが、学会で口頭発表でもポスター発表は研究者たちがすべて英語でやっていました。多くの優秀な研究者たちの前に、短時間でどうやって自分の研究を皆さんに伝えるか、簡明な言葉で複雑なことを説明するか、すごく大切なことだと考えられます。</p> 

平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第3次 No.13

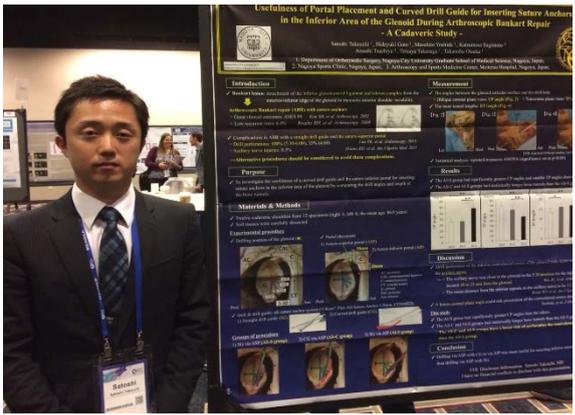
【所 属】	システム自然科学研究科 博士前期課程 2 年
【氏 名】	TAODE BILIGE
【学会の名称】	Taiwan-Japan Plant Biology 2017 (台湾-日本植物学会2017)
【研究発表報告】	<p>今回の学会は私にとって初めての国際学会で、今後の研究にとっても役に立つと思います。私はオオムギの遺伝子について研究していますが、学会の参加者の中でもオオムギの研究をしている方が沢山参加されており、自分の研究内容と実験方法について英語でコミュニケーションすることができました。この三日間の学会参加により、海外の研究者に質問をすることで今後の研究に役立つ実験手法も学習でき、非常に有益でした。</p> 

◆第4次 No.1

【所 属】	医学研究科 博士課程1年
【氏 名】	川西 佑典
【学会の名称】	The Annual Meeting of Orthopaedic Research Society 2018 (米国整形外科基礎学会 学術集会)
【研究発表報告】	<p>自分自身初めての国際学会ということで、様々な国籍や人種の参加者がいるなかでの学会に参加すること自体が大きな刺激となった。</p> <p>ニューオーリンズの様子としても、歴史的な古き良き街並みやフレンチクォーターなどは夜中までにぎやかな雰囲気です。初めは終日楽しい時間を過ごすことができました。</p> <p>初めて国際学会に参加させていただき、多くの貴重な経験をする事ができました。今回得られた成果を生かし、今後さらに研究をすすめ、結果を出す事ができるように努力していきたい。</p> 

平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第4次 No.2

【所属】	医学研究科 博士課程2年
【氏名】	竹内 聡志
【学会の名称】	The Annual Meeting of Orthopaedic Research Society (全米整形外科基礎学術集会)
【研究発表報告】	<p>今回、初めて国際学会に参加させていただき、非常に貴重な経験となりました。今後も当大学での研究成果を積極的に海外へ発信していくために、この経験を活かし努力していきたいと思っております。</p> 

◆第4次 No.3

【所属】	医学研究科 博士課程3年
【氏名】	安間 三四郎
【学会の名称】	The Annual Meeting of Orthopaedic Research Society (全米整形外科基礎学術集会)
【研究発表報告】	<p>Poster sessionを中心にACL再建術の治療に関する最先端の研究について触れることができた。</p> <p>明瞭な図や簡潔な文字での説明など聴衆に対してよりよく内容を理解してもらうために気を付けることを学ぶことができた。</p> <p>また、同様なテーマを研究している日本人のプレゼンターがoral発表を行い、質疑応答に的確に対処しているのを見ることができ、とても刺激になった。来年度の自分の英語でのoral発表にあたり、とても参考になったので活かしていきたい。</p> 

平成 29 年度 名古屋市立大学国際学会発表成果報告書

◆第4次 No.4

【所属】 薬学研究科 博士前期課程1年

【氏名】 森 泰毅

【学会の名称】

21st World Meeting on Sexual Medicine (第21回 国際性機能学会)

【研究発表報告】

私はポルトガル・リスボンで開催された21st World Meeting on Sexual Medicineに参加し、口頭発表を行いました。性機能分野でも様々な視点から研究が行われ、視野が広がるとともに今後の研究への刺激をもらう貴重な経験となりました。得られた自信や経験を励みに、研究生活に取り組んでまいりたいと思います。

今回の学会は私にとって初めての国際学会で、今後の研究にとても役に立つと思います。私はオオムギの遺伝子について研究していますが、学会の参加者の中でもオオムギの研究をしている方が沢山参加されており、自分の研究内容と実験方法について英語でコミュニケーションすることができました。この三日間の学会参加により、海外の研究者に質問をすることで今後の研究に役立つ実験手法も学習でき、非常に有益でした。

